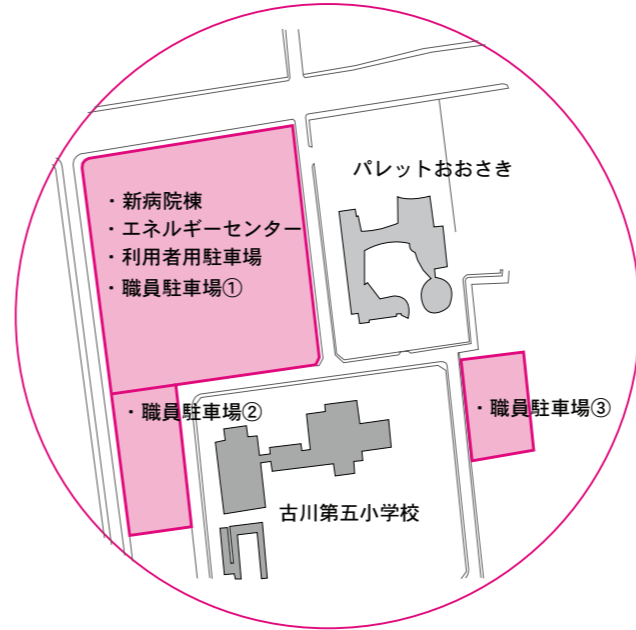


# マグネットホスピタルをつくるため

## 大崎市民病院本院を古川穂波地区市有地に移転建て替えます

大崎市民病院本院を現在地に建て替える計画を見直し、古川穂波地区の市有地に移転して建て替えることにしました。十月に開かれた大崎市議会臨時会で移転のための関係議案が可決されたことにより、今後は、平成二十六年四月開院に向けて古川穂波地区での建設に全力で取り組みます。

◎ 病院建設課 ☎33311



**大崎市民病院基本計画の基本項目 平成二十一年三月策定**

- ① 病床数を五百床とし、救命救急センターや手術室、検査室、集中治療室等を一体的に集約させる
- ② 現在地(千手寺町)周辺の敷地を拡大し、平成二十五年度中の開院を目指す
- ③ 総事業費は、新市建設計画に示された百六十億円に近づける

**平成二十五年度中の完成にこだわる理由**

- ① 現在市民病院で使用している放射線治療用装置は、平成十二年に導入されました。メーカーの想定する耐用年数は十年で、平成二十六年三月には保守部品の補充が停止になり、在庫品が無くなると修理ができなくなってしまう。
- ② 国の財政等の支援が受けられません。
  - ▼医療施設耐震化臨時特例交付金：約十億円
  - ▼平成二十二年着工が条件
  - ▼地域医療再生基金事業(県基金事業)：約五億円
  - ▼平成二十五年度までの計画期間が条件

**大崎市議会で可決**

平成二十一年第二回大崎市議会臨時会が、十月二十一日から二十三日まで開催され、市民病院本院の古川穂波地区市有地への移転経費として、環境影響調査委託料五百万円、不動産鑑定委託料二百二十万円の補正予算案を提案しました。三日間にわたり二十一人の議員から質疑があり、賛成・反対それぞれの討論の後、採決されました。賛成・反対は記名投票で行われ、賛成三十五、反対十六という結果で、賛成多数で補正予算案が可決承認されました。

**総事業費の見込みは百九十四億七千万円**

- ① 古川穂波地区市有地の場合も現在地(敷地拡大)の場合も総事業費の中に、既存の市有地分の用地費は、計上していません。古川穂波地区市有地での総事業費の中には、駐車場用地として新たに取得する三・五億円の用地取得費を計上しており、平面の駐車場を計画しているため、立体駐車場の建設費は含まれていません。
- ② 現在使用している救命救急センターおよび南病棟は、本院の移転建て替え後も、医療等公共施設としての活用を検討しているため、地方債の繰上げ償還や補助金返還の対象事由には該当しないと考えています。
- ③ 医師・看護師宿舎については、現在の施設を継続利用する計画なので、いずれの候補地でも事業費の中に計上していません。今後、新しい病院のそばに宿舎が必要となれば、民間施設の賃貸などを含めて検討します。

**マグネットホスピタル**

マグネットホスピタルとは、医師、看護師、患者を磁石のように引き付ける魅力のある病院のことです。市民病院本院は、高度な先進医療が受けられる、県北の基幹病院であり、マグネットホスピタルとして整備する必要があります。

今年三月に策定された大崎市民病院基本計画では、現在地の用地を拡大して建て替えるには、計画に沿った用地の確保が前提でした。

計画に基づき、現在地での建て替えを進めてきましたが、計画どおりの用地確保ができない状況となり、計画の基本項目をクリアすることができませんでした。

新しい病院は、平成二十五年度中に完成しなければならぬという、時間的な制約があるため、現在地を含めこれまで候補地となった四カ所に古川穂波地区市有地を加えた五カ所について、改めて比較検討した結果、古川穂波地区市有地が基本計画に沿った病院建設に最も適しているという結論に達しました。

選定の要因としては、古川穂波地区市有地だけが平成二十五年度完成という要件を満たし、総事業費も国の財政支援を受けることにより一六〇億円に近づくと判断しました。

古川穂波地区市有地の場合は、駐車場用地などこれから取得する土地もありますが、建設場所はさら地の市有地であることから着工でき、時間的制約が少ないことが最大の利点です。

市では、十月中に臨時議会を招集して、病院移転建て替えに必要な関連議案を提出し、審議の結果、可決されました。これにより、今年度中に建設予定地となる古川穂波地区市有地の地質調査や建物の基本設計などに着手し、平成二十五年度中の完成、平成二十六年四月開院を目指します。

市民皆様には、今回の計画変更に関して、大変ご心配をおかけしました。また、これまで現在地での建て替えにご理解とご協力をいただいていた地権者をはじめ、周辺の方々には、方針を転換したことで多大なご迷惑をおかけすることになりました。ここにお詫び申し上げます。

新しい病院が真正正銘のマグネットホスピタルとなるよう、万全を期し、市民病院スタッフとともに、市民に愛される市民病院づくりを目指します。

ご理解とご協力をお願いします。

**比較したポイント**

◀ 候補地の現状と個別の留意点等を考慮したスケジュール

No.	候補地名	用地の留意点	地盤の状況	建設工事等の留意点	開院までの事業期間
1	古川穂波地区市有地	駐車場用地の地権者少数でさら地	若干の沈下は想定されるが問題なし	整った四角い敷地で施工に制限がない	54カ月
2	現在地(敷地拡大)	移転・整地・ライフライン切り回しに時間を要す	地下水位が高いが、対策を施せば危険性は少ない	先行解体等の手戻りと建設作業時間に制限あり	64カ月
3	古川駅前	JR接近工事の詳細協議に時間を要す	危険性が少ない	道路等で敷地が3つに区分される	70カ月
4	古川穂波(塚目駅南)	地権者が多く、用地交渉に時間を要す	若干の沈下は想定されるが問題なし	鉄塔、送電線の移設工事に時間を要す	78カ月
5	古川大幡	造成、盛土工事に時間を要す	沈下を収束させるのに時間がかかる	鉄塔、送電線の移設工事に時間を要す	84カ月

◀ 総事業費の見込み

単位：億円

No.	候補地名	建設事業費	移転経費	用地補償費	造成費	インフラ整備費	合計
1	古川穂波地区市有地	190.2	1.0	3.5	0	0	194.7
2	現在地(敷地拡大)	200.9	1.0	9.3	0	3.5	214.7
3	古川駅前	202.1	1.0	16.7	0	0	219.8
4	古川穂波(塚目駅南)	194.8	1.0	21.1	3.4	0	220.3
5	古川大幡	195.5	1.0	18.4	5.4	4.4	224.7